



ムーニーヴァレー競馬場の金曜ナイター。屋外のブックメーカーで馬券を買う様子。



メルボルンカップ当日の装鞍所の様子。左奥にいるのがカレンミロティック。



カントリーのカップデイにおけるベストドレッサー賞(カイントン競馬場)。

世界旅打ち氣分

●第4回・フレミントンとムーニーヴァレー

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2018年4月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

ツプもあつて（オーストラリアはグズを売っていない）とも多い、日本人好みだ。

競馬開催日にはシティのフリンダースストリート駅から直行列車が出るので、それに乗ればアクセスは簡単。府中競馬正門前駅よりも競馬場に近い駅に着く。また別な方面の出口にはトランの停留所もあり、交通に関してはとにかく便利だ。

メルボルンカップを含むスプリングカーバル期間中は指定席が取りづらい、特にカップデイは木テルなどとセットになった高額抱き合わせ商品を貰わないと席を押さえるのは難しい。一般エリアでの観戦も以前よりは楽になつたが、メルボルン当日はかなりの混み具合なので覚悟が必要だ。

一方で、通常の開催日はそれはど混まないし、席も押さえやすい。旅打ちとして行くにはそちらのほうがよいかもしね。

このフレミントンでおすすめのが、装鞍所。オーストラリアの装鞍所はビルもファンとの距離が近く、馬名も表示されているところが多い。その中でもフレミントンは数年前に装鞍所を改装してきれいな桟場になつたし、馬名も電光掲示で確実に表示されている。またレース前後に曳き運動をするスペース

もファンから見やすいようになつて、とにかく馬を見ていれば楽しむ人が多い人にとっては天国。このような施設を日本で作つたらアイドルホースの前に群衆が押し寄せてしまいそうなものだが、現地ではたゞメルボルンカップであつても意外と秩序が保たれている。しかもこのエリアは一般エリアなので入場券のみで入つても見ることができる。

レースのほうでは長い直線「ース」があり、千直ならぬ「1200直」も行われるので、日本には無いレースとして楽しみたい。

さて、メルボルン地区で知名度のあるもうひとつのおすすめしたくは、コックスマートだ。その「コックスマート」が行われるマーク・ヴァーレー競馬場については、金曜のナイターに訪れ、「ラックスして楽しむことをおすすめしたい。

シティからは電車のムーアズ・ブランズ駅からトライムのムーア・ポンズ・ヤンクション停留所からアプローチするところとなるが、遠いほうの前者からで徒步10～12分ほどいったところだ。

十分に楽しむ」とができる。ギフトショップもある。

金曜のナイターは「ース沿いの芝生エリアに生バンドが入ったり、みんな飲んで騒いで楽しんでといふノリ。食べ物は競馬場常駐の売店のほか、キッチン、ワゴンがなにかしら来ている。スタンドと「ースの間の屋外エリアにもブックメーカーが出ていたりTAB(馬券販売会社)の車載馬券売り場が出ていたりするので、バンドやイベントを見ながら馬券を楽しむ」ともできる。

もちろんここでも装鞍所を見ることができるし、日本でいうペドック(マウンティングヤード)も見やすい。ペドックはほとんど周回してくれないので、その代わりなぜかゾーンから少し離れているので、快適に見られる。

最後に、今回オーストラリアを取り上げたのはわけがあり、4月から私が出演するオーストラリア旅打ち番組がグリーンチャンネルで放送中なのである。そこでについては今回扱った2場以外の競馬場が2つ出てくるし、他州の競馬や競馬関連・馬関連のスポットも数多く登場。大物関係者インタビューやあるので、ぜひご覧いた

その中で、今回対象とするのは
ヴィクトリア州のメルボルン。メル
ボルン地区にもたくさん競馬場
があるので、その中でも2場に「フォ
ークス」してお届けしたい。
まず最初にオーストラリアとそ
の競馬について簡単におさらいし
よう。オーストラリアはシドニーの
あるニーサウスウェールズ(NS
W)、メルボルンのあるヴィクトリア
(V-C)、アデレードのある南オー
ストラリア(SA)、パースのある西
オーストラリア(WA)、ブリスベン
のあるクイーンズランド(QLD)
ダーリングのあるノーザンテリト
リー(NT)、そしてV-Cの南方に
ある島のタスマニア(TAS)といつ
た州と準州(NTは準州)から成
る。

競馬のレベルが高いのはNSWと
VICで、日本人に知名度のある
大レースもそのほとんどがこの2
州で行われている。ただ、QLDは

のはもちろんメトロで、よほどの旅打ち愛好家でない限り、訪問する機会があるのはメトロの競馬場だろう。ちなみにV-Cだけはプロヴァン・シャルという概念がほとんど使われなくなつており、そこそこの競馬場でもカントリーに仕分けされているようである。ただ開催やレースの大きさによってはメトロ常連の一 流騎手が参戦することもある。

また、カントリーの競馬場であつても、カットデイと呼ばれる年間最大のレースが行われる日は、場内が大きく盛り上がる。ふだん競馬をやらない人もお祭り的に集まるし、着飾った人の割合も高くなる。ベストドレッサー賞のようなコンテストが行われることも多い。

ベストドレッサー賞といえば、競馬場になにを着ていくかというのには、欧洲やオセアニアの競馬場に行く際に日本人が悩むところだろう。実はこれがけつこう難しく、

崩しすぎると失礼にあたるので難しいのだ。逆に、カントリーのヒラ開催・一般エリアでネクタイを締めていたらそれなりに浮いてしまう。一般エリアの場合、無難なのはいわゆるスマートカジュアルだろう。

第4回の今回は、オーストラリアを対象としたい。といっても、オーストラリアは広く、競馬場も無数にある。中には年に一日しか開催しない競馬場というものもあり、先日坂井瑠星騎手が勝利をあげ

大きなセールがあつたり、日本人騎手が他の州より多かつたりといふことで、日本の競馬関係者が訪れる機会もそれなりにある。

競馬場 競馬開催はメトロ・プロヴィンシャル・カントリーの3カ

正解が書いてある」ともある。競馬場によつてはホームページに「何を着ていべきか」のコーナーがあり、エリア（メンバーエリアか一般エリアか、関係者エリアかなど）と開催の大きさによつてレスポンス